

What's happening?

大学生活への期待

工学部機械工学科 4年
MUHAMAD NAIM SHAARIN ムハマド ナイム シャアリン
[マレーシア]



先輩の家にて 2009 年の年越しそばを楽しむ (本人は右側)

今日、全高校生の半分近くの人が大学に進学するといわれている。そのような中で、よく大学生のあり方が話題にされる。アルバイトにばかり精をだし、漫画ばかり読んでいるなど、彼らに対する批判の声は多い。大学進学を目指している私たちにとっては、身につまされる話である。

いったい、大学とは、大学生はどういう存在なのであろうか。世の中の人びとは、大学生に何を期待しているのだろうか。

確かに、いろいろ専門的知識を身につけたり、技術を学んだりすることは絶対に必要であり、これが、大学生に第一に期待されているということも事実である。そして、多くの人はこのことを目標として進学するのであろう。

しかし、私が大学生活に対して期待していることとは、学問研究の場としてだけではない。これと同様に、人間性・社会性の形成ということも重要なのではないだろうかと思っている。

高校時代に、私はあまりにわずかなことしかしなかったような気がする。高校における3年間は、すべてのことが学校中心で、受験勉強に追われて過ぎてきた。それはそれなりに意義もあったのだろう。しかし、私には、自分のまわりのごく身近な世界だけに片よっていたような気がするの



2008年の冬休み：はじめての姫路城の旅

る。このまま社会人となるには、何か足りないような気がするのである。

社会活動もしてみたい。読書も有機化学を好きになってほしい。いろいろなことを見て、聞いて、話して、たくさんのかしをし、たくさんの人と会って、ありとあらゆることを知りたいのである。

大学時代とは、同世代の多くの人が社会人として出発するとき、さらにあたえられた貴重な学生時代である。この恵まれた時期に、できる限り多くのことを吸収したい。専門としての学問だけでなく、心に、そして、一人の人間としての私全体に、プラスとなるようなことを学びとって生きたい。

最後に、高校時代よりもはるかにゆとりある、落ち着いた大学生活の中で、自分を見つめ直し、目標に向かって進む過程でどのように自分を伸ばしたらよいかを考えたい。そして、貴重な大学生活を、充実した悔いのないものに

留学生滞在記



行ってきました

サンフォード大学薬学部での臨床薬剤師教育研修を終えて

大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 (薬学系)
創薬生命工学分野 助教

辻 大輔 つじ だいすけ



徳島大学薬学部は、文部科学省による「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成プログラム」(医療人 GP) に採択されており、平成 18 年度より臨床現場において高度な医療薬学の知識と技能を有する薬剤師養成のために様々な活動を行ってきました。このプログラムの一環で、平成 20 年 9 月に米国サンフォード大学薬学部において、米国での臨床薬剤師教育の現状について学ぶ機会を得ました。

サンフォード大学は、アラバマ州中部に位置するバーミングハムにあります。バーミングハムはアラバマ州の大都市ですが、大学は都市部から少し離れた丘の上にあり、周辺を豊かな自然に囲まれています。

今回の研修では、サンフォード大学における臨床薬剤師教育関連の講義や臨床実習に参加させていただきました。特に臨床実習では、病院やクリニック、コミュニティーファーマシーなどでの実習に同行し、臨床現場での薬剤師教育を直接見る機会に恵まれました。

サンフォード大学薬学部へは、Pre-pharmacy 段階で必要単位を取得した学生が入学してきます。学年は P1-P4 の四学年からなります。サンフォード大学薬学部には Pharm.D. コースのみが置かれており、優秀かつ信頼される臨床薬剤師を育てることに重点をおいたカリキュラムが組まれています。臨床現場へは薬学部所属教員を非常勤職員として派遣しており、薬剤師業務を行いつつ、責任もって学生のトレーニングを担当しておりました。

また臨床トレーニングに加えて症例報告 や PBL (Problem based learning) 形式のケーススタディが取り入れられており、臨床トレーニングでの教育効果をより高めているように感じました。

加えて、患者や医療スタッフとのコミュニケーションスキルの習得が必須科目として組み込まれているなど、サンフォード大学薬学部では "医療人の一員" として "患者に接する" 薬剤師という明確な薬剤師像を持った上で教育

が行われていることを実感しました。

サンフォード大学薬学部での研修を通し、日本の薬学部が抱えている薬剤師教育に対する「問題点」や「将来像」が明確になり、今後の課題として今回の経験を活かしつつ、薬学部の教育・研究に貢献できればと思います。

余談になりますが、日本へ帰るためにバーミングハムからデトロイトへの移動を飛行機 (50 人乗りの小さなジェット機) で行っていたのですが、途中で落雷に遭遇してしまい、恐怖のどん底に突き落とされました。しばらくは小さい飛行機には乗りたくないと思っています。

最後になりましたが、このような機会を与えてくれました高石学部長はじめとする、お世話になりました教職員の方々へ心より感謝いたします。また今回の研修で大変お世話になりました Robert Henderson 教授をはじめとするサンフォード大学薬学部の皆様へ深く感謝いたします。

海外体験記

海外体験記



海外体験記

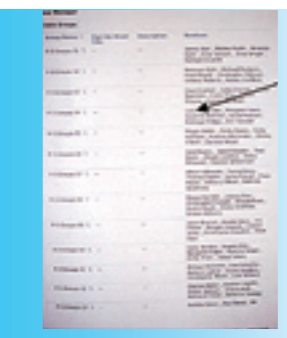
サンフォード大学



薬学部



PBL形式の講義



使用していた本



1 回に 30 人 (6 グループ) で行う
プリセプターは 1 グループ 1 人
学生は 4 グループ 5 人